(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-43448
(P2008-43448A)
(43)公開日　平成20年2月28日(2008.2.28)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A61H 7/00	(2006.01)	A61H	7/00	322D	4C074
A61H 23/02	(2006.01)	A61H	23/02	336	4C100

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 16 頁）

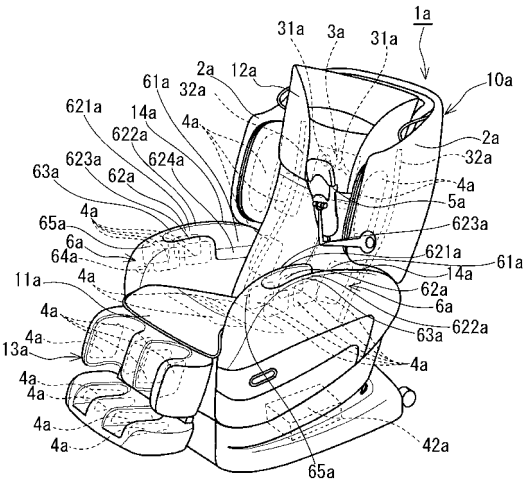
(21)出願番号　特願2006-220454 (P2006-220454)
(22)出願日　平成18年8月11日 (2006.8.11)

(71)出願人　000136491
株式会社フジ医療器
大阪府大阪市浪速区日本橋東三丁目１５番１号
(71)出願人　000162010
京和装備株式会社
群馬県太田市新田木崎町３６６
(74)代理人　100129159
弁理士　黒沼　吉行
(72)発明者　小栗　慎一
大阪府大阪市浪速区日本橋５丁目５番２１号　株式会社フジ医療器内
(72)発明者　藤代　光明
大阪府大阪市浪速区日本橋５丁目５番２１号　株式会社フジ医療器内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】椅子式マッサージ機

(57)【要約】
【課題】
肘掛部に施療者の前腕部をマッサージする前腕部施療機構を設けた場合に、該前腕部施療機構の立上り壁が施療者の腕部に対して不必要に圧迫して不快感をもたらすという要因を解消し、前腕部施療機構における腕部の載脱をスムーズに行えるようにすると共に、施療者が起立及び着座時に前腕部施療機構が邪魔にならずに快適に使用できる肘掛部にした椅子式マッサージ機を提供する。
【解決手段】
椅子式マッサージ機１ａにおいて、肘掛部１４ａには、肘掛部１４ａの内側後方から施療者の前腕部を挿入するための前腕挿入開口部６１ａを有しており、前腕挿入開口部６１ａから延設して肘掛部１４ａの内部に施療者の前腕部を挿入保持するための空洞部６２ａを設け、空洞部６２ａの内部壁面６２１ａ各所に施療者の前腕部にマッサージを施すための前腕部施療機構６ａを設けて構成する。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
座部及び背凭れ部を有する椅子本体と、該椅子本体の両側部に肘掛部を有する椅子式マッサージ機において、前記肘掛部には、該肘掛部の内側後方から施療者の前腕部を挿入するための前腕挿入開口部を開設すると共に、該前腕挿入開口部から延設して肘掛部の内部に施療者の前腕部を挿入保持し得る空洞部を設けており、且つ、該空洞部の内部壁面各所に施療者の前腕部にマッサージを施し得る前腕部施療機構を設けた事を特徴とする椅子式マッサージ機。
【請求項２】
前記空洞部の底面部は、施療者の前腕部を載置し得る載置面とする事ができる底面部に形成してある事を特徴とする請求項１記載の椅子式マッサージ機。
【請求項３】
前記肘掛部の上面部には、前記空洞部を隔てて施療者の前腕部を載置し得る載置面が形成されている事を特徴とする請求項１又は請求項２記載の椅子式マッサージ機。
【請求項４】
前記肘掛部は、椅子本体に対して前後方向に移動可能に設けられており、前記背凭れ部のリクライニング角度に応じた所定の移動量を保持しながら該背凭れ部のリクライニング動作に連動して前記肘掛部が椅子本体に対して前後方向に移動するようにした事を特徴とする請求項１記載の椅子式マッサージ機。
【請求項５】
前記空洞部の先端部には、前腕部施療機構の動作を停止するための安全停止スイッチを備えていることを特徴とする請求項１又は請求項２記載の椅子式マッサージ機。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、肘掛部に施療者の前腕部をマッサージする前腕部施療機構を備えた椅子式マッサージ機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の、座部と背凭れ部、そして該座部の左右両側に肘掛部を設けた椅子式マッサージ機において、肘掛部の上部に前腕部施療機構を備えて、着座した施療者の腕部をマッサージする形態のものは既に存在し、市場では商品化されている。
【０００３】
例えば、図１９に示すような、前腕部施療機構を備えた椅子式マッサージ機が開示されている。すなわち、手揉機能付施療機１として、肘幅方向両側に各々立上り壁２１１・２１１を設けた肘掛部２１を椅子本体２の両側に設けており、その肘掛部２１の各立上り壁２１１・２１１間に人体手部を各々嵌脱自在で該人体手部に膨縮施療を付与し得るよう、圧縮空気給排気手段を配設して成り、施療者が着座状態で人体手部を両肘掛部２１・２１上面部に安定的に保持させて、人体手部及び腕部を効率良く空圧施療する事ができるよう構成したものである。尚、肘掛部２１の前側上面部は、立上り壁２１１が形成されておらず、平坦になっている。
【０００４】
さらに、前述したような左右一対の立上り壁を左右の肘掛部の長さ方向全域に夫々設けた形態のものを図２０に示す。すなわち、凹部の内壁に、人体の肢体を挿入するための空間を設けるように空気袋を夫々取着して施療部を形成し、空気袋に空気を給排気して空気袋を膨張及び収縮させる給排気装置を連通して設けてなるエアーマッサージ機３を、椅子２０の肘掛けの上部全域に設けた構成である。
【特許文献１】特開２００３－１８０７７３号公報（第７頁、図１１）

【特許文献２】特開２００１－０３７８２９号公報（第３頁、図２）
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ところで、従来の図２０に示すような、肘掛部の長さ方向全域に前腕部施療機構として左右一対の立上り壁を設けた椅子式マッサージ機は、手部及び前腕部の広範を同時にマッサージする事ができて便利であるが、施療者の肘関節付近にまで該各立上り壁が形成されているため、図１８に示すように、上腕部内側の肘関節付近を施療者側である内側立上り壁６２３が圧迫して、施療者に不快感を与えたり、また、前腕部施療機構における腕部の載脱行為を妨げたりするなどの欠点があった。特に、施療者の身長が低くて小柄である程、内側立上り壁６２３による圧迫が大きくなると考えられる。
【０００６】
また、着座した施療者が立ち上がる際、或いは着座する際において、通常は肘掛部の前端部を手で掴んで体重を掛けるのであるが、図２０に示す形態の椅子式マッサージ機は、肘掛部の前端部にまで左右の立上り壁が形成されているため、肘掛部の前端部の上面部が開口された形態となり、そのような部分に体重を掛ける事は困難であった。
【０００７】
一方で、左右一対の立上り壁を設けた椅子式マッサージ機において、図１９に示すような肘掛部の前側上面部に該立上り壁が形成されず、平坦になった部分を有する構成のものに関しては、該平坦になった部分を手掛け部として体重を掛ける事ができるのであるが、左右一対の立上り壁間に形成される凹部の底面部と、該手掛け部の平坦になった部分とが同じ高さの同面であるため、手掛け部を掴んで立ち上がろうとする際、前述した図１８に示すのと同様、内側立上り壁６２３によって上腕部内側の肘関節付近が圧迫を受け、その付近と共に前腕部の内側が摺擦されながら、凹部から腕部が離脱する事になり、この場合も施療者に対して不快感を与えるものとなると考えられ、解決すべく問題となっていた。
【０００８】
そこで、本発明は、上記問題点を解消する為に成されたものであり、施療者の腕部に対し、前腕部施療機構の立上り壁が不必要に圧迫して不快感をもたらす要因を解消し、前腕部施療機構における腕部の載脱をスムーズに行うよう構成すると共に、前腕部施療機構を有していても施療者が起立及び着座を快適に行う事ができるよう構成した椅子式マッサージ機を提供する事を目的とするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００９】
すなわち、本発明の椅子式マッサージ機は、座部及び背凭れ部を有する椅子本体と、該椅子本体の両側部に肘掛部を有する椅子式マッサージ機において、前記肘掛部には、該肘掛部の内側後方から施療者の前腕部を挿入するための前腕挿入開口部を開設すると共に、該前腕挿入開口部から延設して肘掛部の内部に施療者の前腕部を挿入保持し得る空洞部を設けており、且つ、該空洞部の内部壁面各所に施療者の前腕部にマッサージを施し得る前腕部施療機構を設けた構成ものである。
【００１０】
また、本発明の椅子式マッサージ機は、前記空洞部の底面部を、施療者の前腕部を載置し得る載置面とする事ができる底面部に形成してある構成にする。
【００１１】
さらに、本発明の椅子式マッサージ機は、前記肘掛部の上面部に、前記空洞部を隔てて施療者の前腕部を載置し得る載置面が形成されている。
【００１２】
また、本発明の椅子式マッサージ機は、前記肘掛部を、椅子本体に対して前後方向に移動可能に設けられており、前記背凭れ部のリクライニング角度に応じた所定の移動量を保持しながら前記背凭れ部のリクライニング動作に連動して前記肘掛部が椅子本体に対して前後方向に移動するように構成している。

【００１３】
さらに、本発明の椅子式マッサージ機は、前記空洞部の先端部に、前腕部施療機構の動作を停止するための安全停止スイッチを備える構成にしている。
【発明の効果】
【００１４】
よって、本発明の椅子式マッサージ機は、肘掛部に、肘掛部の内側後方から施療者の前腕部を挿入するための前腕挿入開口部を有しており、該前腕挿入開口部から延設して肘掛部の内部に施療者の前腕部を挿入保持するための空洞部を設け、該空洞部の内部壁面各所に施療者の前腕部にマッサージを施すための前腕部施療機構を設けた構成のものであるため、前腕部に対する不必要な圧迫や摺擦をもたらす要因がなくなる。よって、前腕部施療機構におけるスムーズな前腕部の載脱が可能となり、施療者が起立及び着座を快適に行う事ができる。
【００１５】
また、前記空洞部の底面部を、施療者の前腕部を載置しうるための載置面として形成する事により、前記前腕部施療機構を使用しない場合でも、肘掛けとして該空洞部に前腕部を載置する事ができる。
【００１６】
さらに、前記肘掛部の上面部に、前記空洞部を隔てて施療者の前腕部を載置しうるための載置面を形成する事で、前記空洞部の底面部より高い位置の肘掛けとして前腕部を載置する事ができ、特に身長の高い施療者にとって便利である。
【００１７】
また、前記肘掛部は、椅子本体に対して前後方向に移動可能に設けられており、前記背凭れ部のリクライニング角度に応じた所定の移動量を保持しながら前記背凭れ部のリクライニング動作に連動して前記肘掛部が椅子本体に対して前後方向に移動するように構成する事により、背凭れ部のリクライニング角度に関係なく、肘掛部に設けた前記前腕部施療機構における前腕部の位置が可及的に変わらないようにする事ができ、安定した前腕部に対するマッサージを行う事ができる。
【００１８】
さらに、前記空洞部の先端部に、前腕部施療機構の動作を停止するための安全停止スイッチを備える事により、施療者が椅子本体から即座に離れて避難する必要が生じるなどの緊急事態において、前記前腕部施療機構により施療者の前腕部などの肢体が拘束されていたとしても、指先で安全停止スイッチを操作して、直ちに前腕部施療機構から前腕部を離脱する事ができる。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１９】
以下に、本発明の椅子式マッサージ機を、図面に示す一実施形態に基づきこれを詳細に説明する。図１は本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す斜視図であり、図２は本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の斜視図であり、図３及び図４は本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の右側面図であり、図５は本発明の椅子式マッサージ機における背凭れ部の一実施形態を示す横断面説明図であり、図６は本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す使用時の平面説明図であり、図７乃至図１２は本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図であり、図１３乃至図１６は本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す斜視説明図であり、図１７は、本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の部分正面説明図であり、図１８乃至図２０は従来技術を示す参考図である。
【００２０】
すなわち、本発明の椅子式マッサージ機は、図１乃至図３の実施形態で示したように、施療者の臀部または大腿部が当接する座部１１ａ、及び施療者の背部が当接する背凭れ部１２ａを有する椅子本体１０ａと、該椅子本体１０ａの両側部に肘掛部１４ａを有する椅

子式マッサージ機１ａであり、前記背凭れ部１２ａは、座部１１ａの後側にリクライニング可能に連結されると共に、座部１１ａの前側に上下方向へ揺動可能に連結した足載せ部１３ａを設け、また、背凭れ部１２ａの左右両側に前方に向かって突出した側壁部２ａを夫々配設している。

【００２１】

図１に示すように、前記背凭れ部１２ａには、その中央部に左右一対の施療子３１ａを備えた昇降自在の施療子機構３ａを設けている。該施療子機構３ａは、背凭れ部１２ａの内部左右に設けた左右一対のガイドレール３２ａに沿って背凭れ部１２ａの上端から下端にかけて昇降するようにしている。

【００２２】

前記施療子機構３ａは、モータ等を駆動源として前記左右一対の施療子３１ａを作動させる機械式のマッサージ機構であり、前記背凭れ部１２ａに凭れた施療者の首部、背部、腰部、臀部等の背面全域を、たたき、揉み、ローリング、振動、指圧などの多様な形態で施療するようにしたものである。

【００２３】

また、前記椅子式マッサージ機１ａの各所定の位置には、空気の給排気により膨縮を繰り返す事が可能な膨縮袋４ａを夫々埋設している。該膨縮袋４ａは、エアーコンプレッサー及び各膨縮袋４ａに空気を分配するための分配器等からなる空気給排装置４２ａによる給排気により膨縮動作を行うようにしており、該空気給排装置４２ａは前記座部１１ａの下部空間に配備している。

【００２４】

前記空気給排装置４２ａによる前記各膨縮袋４ａの膨縮動作によって、施療者の所定の施療部位を押圧、指圧等を実施する事ができるものであり、また、複数の膨縮袋４ａを対となるよう対設させた場合には、挟圧等の施療も行う事ができ、更に、各膨縮袋４ａを膨張状態に保つようにした場合は、施療者の所定の部位を一定の時間保持する事も可能としている。

【００２５】

また、前記椅子式マッサージ機１ａには、前記背凭れ部１２ａの左右上部及び左右下部に夫々膨縮袋４ａを適宜に適数設けられるものであり、これら膨縮袋４ａを適位置に配設することより、施療者の背中及び腰部を押圧、または左右両側から挟圧するような施療を行うよう構成することができる。

【００２６】

また、前記座部１１ａには、後部側に臀下部用、また腿部用の膨縮袋４ａを夫々埋設して、主に下方から上方に押圧する施療を行うようにしている。

【００２７】

前記足載せ部１３ａは、施療者の脛部及び足先部を夫々嵌入させる左右一対の凹部を夫々形成したものであり、各凹部に膨縮袋４ａを左右一対として対設するよう配設させて、凹部内部で施療者の脛部及び足先部に対する挟圧施療を実施するようにしている。

【００２８】

前記背凭れ部１２ａに設けた左右の側壁部２ａは、座部１１ａに着座した施療者の肩または上腕側方となる位置に配設しており、図５に示すように、該左右の側壁部２ａの内側面には夫々左右方向に重合した膨縮袋４ａを並列状態に埋設している。これら重合した膨縮袋４ａ・４ａはその基端部のみを側壁部２ａの基端部に取り付けているため、膨張時には重合した膨縮袋４ａ・４ａが扇状に広がって施療者の身体側部を挟圧しつつ、身体前方まで覆うようになる。

【００２９】

よって、前記左右側壁部２ａの前記膨縮袋４ａは、膨縮動作により身体側部を施療する事ができるだけでなく、一定の時間において膨張状態を保ちながら、施療者の身体が前記背凭れ部１２ａから離れないようにしっかりと保持する事ができ、図５に示すように施療者の身体を固定したままの状態で前記施療子機構３ａの前記施療子３１ａによる背部から

の施療を効果的に受ける事が可能となるのである。

【００３０】

本発明の椅子式マッサージ機１ａは、図１及び図６に示すように、前記肘掛部１４ａに、前記肘掛部１４ａの内側後方から施療者の前腕部を挿入するための前腕挿入開口部６１ａを有しており、また、該前腕挿入開口部６１ａから延設して肘掛部１４ａの内部に施療者の前腕部を挿入保持するための空洞部６２ａを設けている。

【００３１】

さらに、前記椅子式マッサージ機１ａは、前記空洞部６２ａの内部壁面６２１ａの各所に施療者の前腕部にマッサージを施すための前腕部施療機構６ａを設けて構成している。

【００３２】

前記空洞部６２ａは、前記肘掛部１４ａの幅方向左右に夫々設けた外側立上り壁６２２ａ及び内側立上り壁６２３ａと、底面部６２４ａとから形成しており、該外側立上り壁６２２ａ及び内側立上り壁６２３ａの前記各内部壁面６２１ａに、前腕部施療機構６ａを設けている。尚、適宜底面部６２４ａにも該前腕部施療機構６ａを設ける事ができる。

【００３３】

前記底面部６２４ａは、施療者の前腕部を載置しうるための載置面として形成されている。該底面部６２４ａに手部や前腕部を載置した状態で、前腕部施療機構６ａによる施療を実施できるようにしている。

【００３４】

前記前腕部施療機構６ａは、前記膨縮袋４ａからなる形態のものでもよく、図６及び図７に示すように、施療者の手部と前腕部に対し夫々挟圧マッサージが行えるように、前記空洞部６２ａの長さ方向前後に左右一対の膨縮袋４ａ・４ａを夫々設ける事ができる。すなわち、空洞部６２ａの長さ方向前側に設けられた前記左右一対の膨縮袋４ａは、手部に対応し、また空洞部６２ａの長さ方向後側に設けられた前記左右一対の膨縮袋４ａは、前腕部に対応するよう構成する事ができる。

【００３５】

さらに、手部に対応した前記左右一対の膨縮袋４ａと、前腕部に対応した左右一対の前記膨縮袋４ａとを、同時に、または交互に膨縮させるようにする事により、変化に富んだマッサージが実現できる。

【００３６】

前記肘掛部１４ａの上面部には、前記空洞部６２ａを隔てて施療者の前腕部を載置しうるための載置面６３ａが形成されている。よって、施療者が前腕部施療機構６ａによる施療を所望しない時に、該載置面６３ａに前腕部を載置しておく事ができる。該載置面６３ａは、前記底面部６２４ａの位置より高いので、身長の高い施療者にとって便利な肘掛けとなる。

【００３７】

図１に示すように、前記肘掛部１４ａには、前記外側立上り壁６２２ａ及び内側立上り壁６２３ａの上面前端部に、着座した施療者が立ち上がる際、或いは着座する際において、体重を掛けるための手掛け部６５ａを設けている。すなわち、前記空洞部６２ａの先端部の上方を塞ぐような形態に手掛け部６５ａを形成している。

【００３８】

また、図１７に示すように、前記底面部６２４ａと前記手掛け部６５ａとの各載置面は異なり、底面部６２４ａよりも手掛け部６５ａの載置面の方が高い位置に形成されているため、施療者が着座状態から立ち上がろうとして、手掛け部６５ａを掴む際、既に前腕部は底面部６２４ａから上方へ移動し、また、前記空洞部６２ａから脱出しているため、図１８に示す従来の構成のように、前記内側立上り壁６２３ａによる前腕部内側の摺擦を回避する事ができる。

【００３９】

さらに、図１３に示すように、前記手掛け部６５ａの下面部及び前記底面部６２４ａの上面部に、前記膨縮袋４ａを夫々設けて、手部を上下に挟圧するよう構成する事も可能で

ある。

【００４０】

このような、前記前腕部施療機構６ａにおける手部に対する上下挟圧動作と、前述したような手部に対する左右からの挟圧動作とを、同時に、または交互に行うことにより、変化に富んだマッサージが可能となる。

【００４１】

また、図１３に示すように、前記底面部６２４ａにおいて、手部に対応した前記左右一対の膨縮袋４ａの他にも前腕部に対応した左右一対の前記膨縮袋４ａの位置に、適宜前記膨縮袋４ａを設ける事ができる。

【００４２】

前腕部に対応した前記各左右一対の膨縮袋４ａと、それに対応するよう底面部６２４ａに設けられた膨縮袋４ａとを、同時に、または交互に行うことにより、変化に富んだマッサージが可能となる。或いは、左右一対の膨縮袋４ａを膨張保持させた状態で、底面部６２４ａに設けられた膨縮袋４ａを上方へ膨張させる事により、前腕部を安定させた状態で圧迫感のあるマッサージを実施する事ができる。

【００４３】

また、図１３に示すように、前記空洞部６２ａにおいて前腕部に対応した前記各膨縮袋４ａよりも後方である位置に、前記膨縮袋４ａを設けてもよい。この後方の位置に、前腕挿入開口部６１ａを設けているため、前記内側立上り壁６２３ａは形成されていないが、図８に示すように、前記外側立上り壁６２２ａ及び前記底面部６２４ａの二面において、互いに対設するよう膨縮袋４ａ・４ａを設ける事ができる。

【００４４】

この場合、図８に示すように、前記外側立上り壁６２２ａの下部において、膨縮袋４ａの下部の縁部４１ａを止着すると共に、前記底面部６２４ａの外側立上り壁６２２ａ側に、もう一つの膨縮袋４ａの外側立上り壁６２２ａ側の縁部４１ａを止着して構成してもよい。これにより、外側立上り壁６２２ａ及び前記底面部６２４ａの二面において、挟圧マッサージを実施する事ができる。

【００４５】

図１３に示す前記前腕部施療機構６ａは、前部に口型施療部６６ａ、中部に凹型施療部６７ａ、後部にＬ型施療部６８ａを夫々備えた構成にしたものを例示している。すなわち、口型施療部６６ａは、前記底面部６２４ａ、前記外側立上り壁６２２ａ及び内側立上り壁６２３ａ、手掛け部６５ａにより口型に囲われた施療部であり、凹型施療部６７ａは、底面部６２４ａと外側立上り壁６２２ａ及び内側立上り壁６２３ａにより凹型に形成する施療部であり、Ｌ型施療部６８ａは、底面部６２４ａと外側立上り壁６２２ａとによりＬ型に形成する施療部である。

【００４６】

図１４に示す形態は、前部に口型施療部６６ａ、中部にコ型施療部６９ａ、後部にＬ型施療部６８ａを夫々備えたものである。該コ型施療部６９ａは、前記底面部６２４ａ、前記外側立上り壁６２２ａ、手掛け部６５ａによりコ型に形成する施療部となる。

【００４７】

この形態は、特に前腕部の中腹に対する上下方向の挟圧を可能としている。また、手掛け部６５ａの面積が大きくなるため、施療者が手掛け部６５ａ上面部に手を置いて起立または着座がし易くなる。

【００４８】

また、図１５に示すのは、前部及び中部に口型施療部６６ａ、後部にＬ型施療部６８ａを夫々備えた構成であり、特に前腕部の中腹に対する施療をさらに充実させる形態のものである。

【００４９】

図９に示すのは、前記口型施療部６６ａに設けた前記膨縮袋４ａの、他の配置形態である。すなわち、下部を底辺とし上部を頂点とする三角型の空洞部６２ａの内面に夫々膨縮

袋４ａを設けている。このように構成する事により、図９に示すように手のひらを下にして載置したり、または図１０に示すように手部を縦にして載置したりする事ができ、施療者の好みに応じられる。

【００５０】

または、図１１に示すように、前記空洞部６２ａを口型に形成すると共に、三角型になるよう複数の膨縮袋４ａを連結し、膨縮袋４ａで形成した三角型の内部に手部や前腕部を挿入する事も可能である。この場合、口型に形成した空洞部６２ａの内部で、自由に手部や前腕部を回転する事ができ、施療者は好みの姿勢で施療を受ける事ができる。

【００５１】

或いは、口型に形成した空洞部６２ａの内部に、輪型の膨縮袋４ａを設けてもよい。該輪型の膨縮袋４ａは、図１２に示すように手部や前腕部の周部を隈無く挟圧する事ができる。

【００５２】

また、図４に示すように、前記肘掛部１４ａは、椅子本体１０ａに対して前後方向に移動可能に設けられており、前記背凭れ部１２ａのリクライニング角度に応じた所定の移動量を保持しながら前記背凭れ部１２ａのリクライニング動作に連動して前記肘掛部１４ａが椅子本体１０ａに対して前後方向に移動するようにしている。

【００５３】

すなわち、前記肘掛部１４ａの下部に前後方向に回動するための回動部１４１ａを設けると共に、肘掛部１４ａの後部で回動可能に前記背凭れ部１２ａの側部と連結する連結部１４２ａを設けて構成している。

【００５４】

または、図示しないが、前記回動部１４１ａの代わりに、ガイドレールなどを採用した水平スライド機構を設けて、前記肘掛部１４ａ全体が前記背凭れ部１２ａのリクライニング動作と連動して、水平にスライド移動するようにしてもよい。

【００５５】

図１に示すように、前記空洞部６２ａの先端部には、前腕部施療機構６ａを含めた全マッサージ機構の動作を停止するための安全停止スイッチ６４ａを備えている。該安全停止スイッチ６４ａを備える事により、例えば、施療者が前記椅子本体１０ａから即座に離れて避難する必要が生じるなどの緊急事態において、前記膨縮袋４ａの挟圧により施療者の身体、または手腕や脚などの肢体が拘束されていたとしても、指先で安全停止スイッチ６４ａを操作して、直ちに膨縮袋４ａの内部気圧を緩和させて、身体や肢体を離脱する事ができる。

【００５６】

前記椅子式マッサージ機１ａの操作を行うため、図１に示すように、リモートコントローラ等の操作部５ａを前記背凭れ部１２ａの左右にある前記各側壁部２ａのうち、片側前方に備えており、該操作部５ａによって、電源の入切、前記施療子機構３ａや前記空気給排装置４２ａ及び各前記膨縮袋４ａによる施療の種類や強度等の選択、また、前記背凭れ部１２ａのリクライニングや前記足載せ部１３ａの上下動の調節等、椅子式マッサージ機１ａの全ての機能に対する操作を行うようにしている。尚、操作部５ａの操作は、図示しないが、液晶画面等の操作表示部や操作ボタン、またはダイヤル等の操作指示部等で行うようにしてもよい。

【００５７】

また、図１６に示すように、前記空洞部６２ａの先端部に、前記操作部５ａとは別に、操作具５１ａを取り付けて、操作部５ａで行う操作を該操作具５１ａにて行い得るよう構成する事ができる。

【００５８】

前記操作具５１ａは、施療者が手部にて操作し易いレバー５１１ａ及び実行ボタン５１２ａを備えたスティック方式のものを採用できる。該レバー５１１ａは、前後方向または左右方向に動かすか、或いは四方または八方など、周囲に動かす事により、選択操作する

事ができる形態のもので、前記操作部５ａの前記液晶画面を確認しながら選択を行い、次いで実行ボタン５１２ａを押して決定する事ができる。

【００５９】

尚、前記操作具５１ａは、施療者の腕部の長さの違いに対応するため、前後にスライド調節するためのスライド調節手段５１３ａを備えてもよい。該スライド調節手段５１３ａは、図示しないが摺動レール及び摺動部材から構成する事ができる。また、必要に応じて、前記操作具５１ａに前記安全停止スイッチ６４ａを配備してもよい。

【００６０】

さらに、前記操作部５ａまたは前記操作具５１ａによる前記椅子式マッサージ機１ａの操作に伴う制御は、電子制御であり、また、予めプログラムされたデータに基づく動作や、施療者が任意に入力したプログラムデータに基づいて動作するようにしてもよい。

【００６１】

前記椅子式マッサージ機１ａに関しては、これまで主に椅子型のものを示したが、これに限らず、例えば、他に少なくとも施療者の臀部または大腿部が当接する座部と施療者の背部が当接する背凭れ部を設けてなるマット型やベッド型にも上記の構成を適用する事ができ、そのような形態の場合は、該背凭れ部または座部の左右両側に、前述した前腕部施療機構６ａを設けて構成する事ができる。

【図面の簡単な説明】

【００６２】

【図１】本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す斜視図である。

【図２】本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の斜視図である。

【図３】本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の右側面図である。

【図４】本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の右側面図である。

【図５】本発明の椅子式マッサージ機における背凭れ部の一実施形態を示す横断面説明図である。

【図６】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す使用時の平面説明図である。

【図７】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図である。

【図８】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図である。

【図９】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図である。

【図１０】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図である。

【図１１】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図である。

【図１２】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す縦断面説明図である。

【図１３】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す斜視説明図である。

【図１４】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す斜視説明図である。

【図１５】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す斜視説明図である。

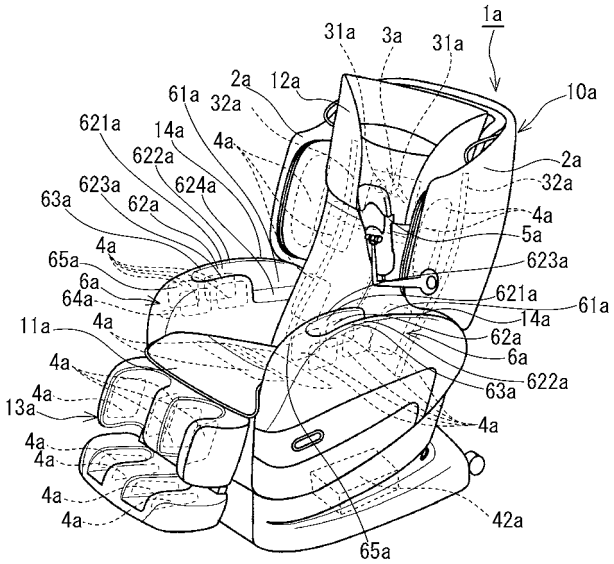
【図１６】本発明の椅子式マッサージ機における肘掛部の一実施形態を示す斜視説明図である。

【図１７】本発明の椅子式マッサージ機の一実施形態を示す使用時の部分正面説明図である。

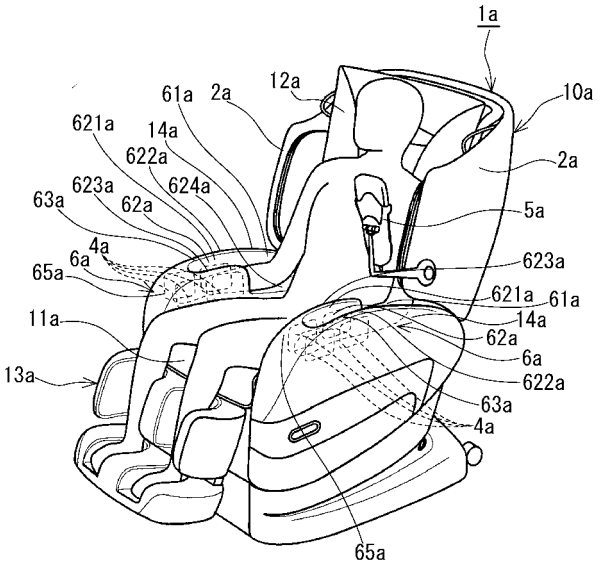
【図１８】従来技術を示す参考図である。

【図１９】従来技術を示す参考図である。
【図２０】従来技術を示す参考図である。
【符号の説明】
【００６３】
１ａ　椅子式マッサージ機
１０ａ　椅子本体
１１ａ　座部
１２ａ　背凭れ部
１３ａ　足載せ部
１４ａ　肘掛部
１４１ａ　回動部
１４２ａ　連結部
２ａ　側壁部
３ａ　施療子機構
３１ａ　施療子
３２ａ　ガイドレール
４ａ　膨縮袋
４１ａ　縁部
４２ａ　空気給排装置
５ａ　操作部
５１ａ　操作具
５１１ａ　レバー
５１２ａ　実行ボタン
５１３ａ　スライド調節手段
６ａ　前腕部施療機構
６１ａ　前腕挿入開口部
６２ａ　空洞部
６２１ａ　内部壁面
６２２ａ　外側立上り壁
６２３ａ　内側立上り壁
６２４ａ　底面部
６３ａ　載置面
６４ａ　安全停止スイッチ
６５ａ　手掛け部
６６ａ　口型施療部
６７ａ　凹型施療部
６８ａ　Ｌ型施療部
６９ａ　コ型施療部

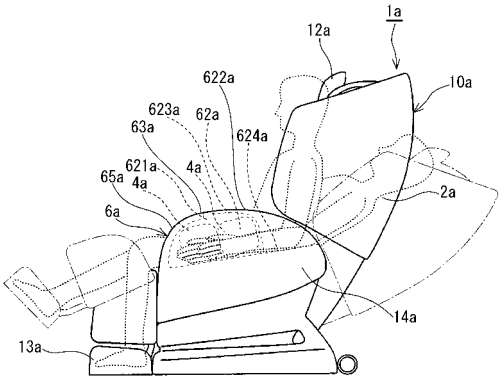
【図１】



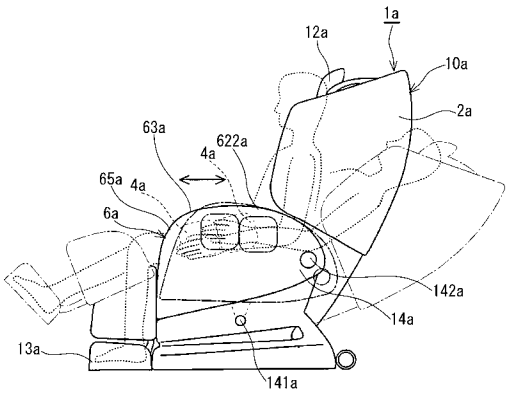
【図２】



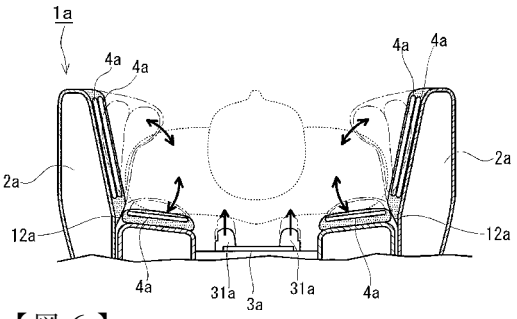
【図３】



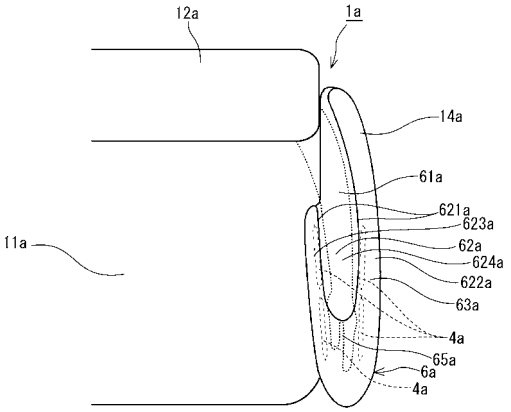
【図４】



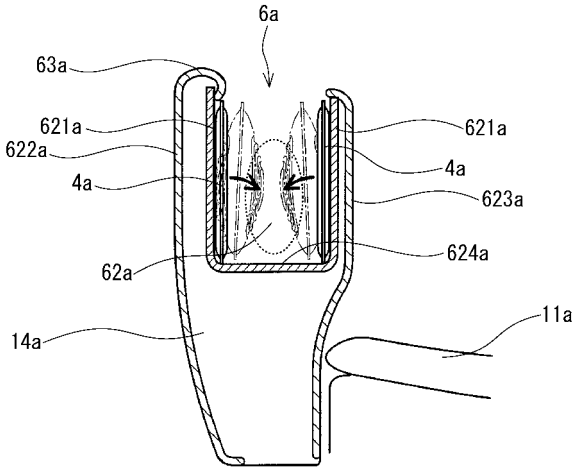
【図５】



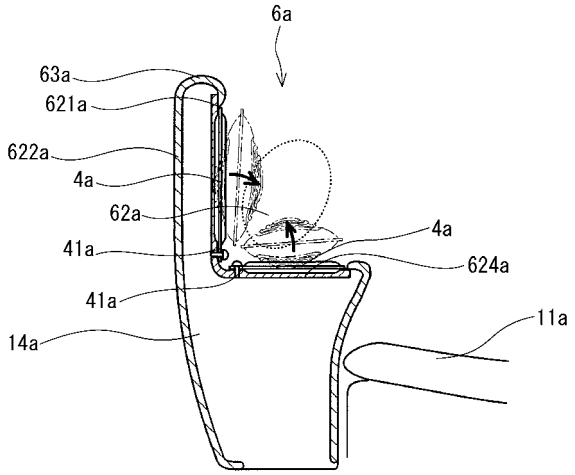
【図６】



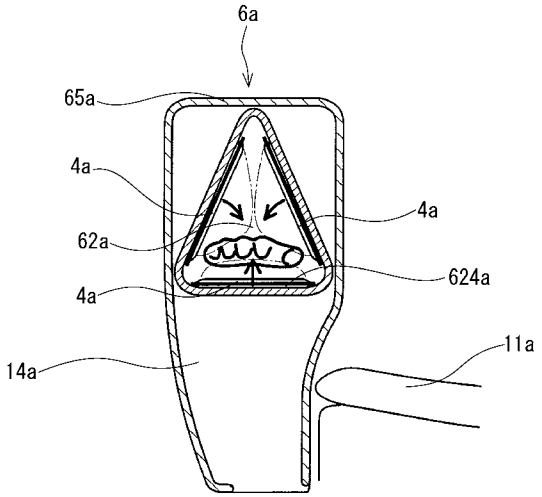
【図７】


6a
63a
621a
622a
4a
621a
4a
623a
62a
624a
14a
11a

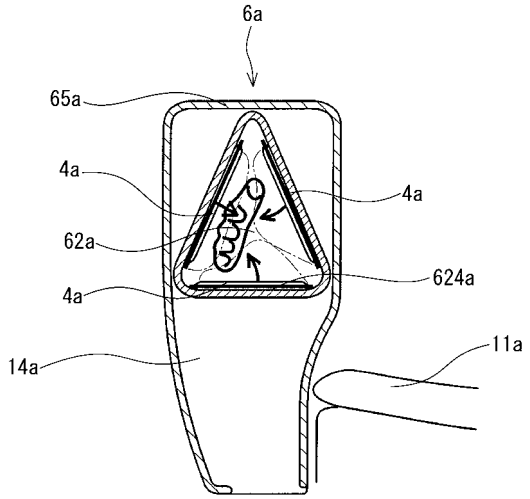
【図８】


6a
63a
621a
622a
4a
62a
4a
41a
624a
41a
14a
11a

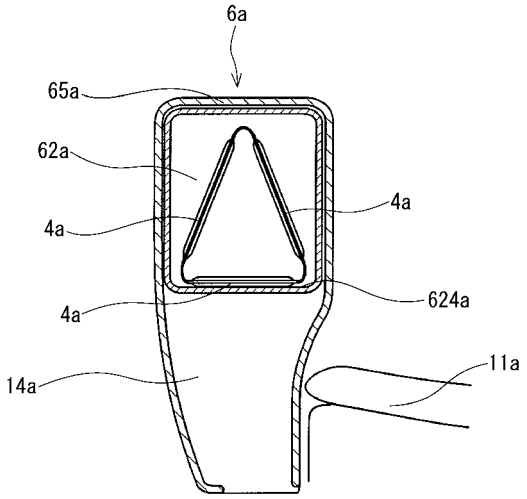
【図９】


6a
65a
4a
4a
62a
624a
4a
14a
11a

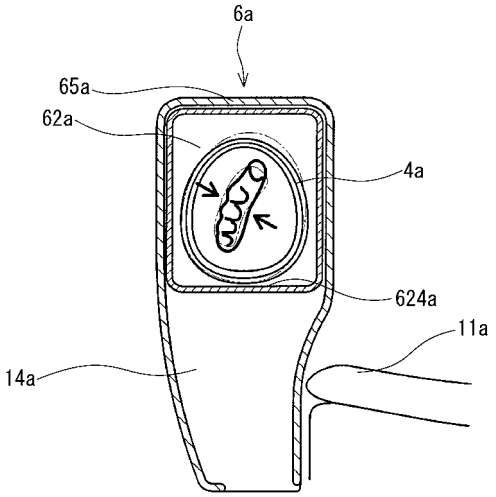
【図１０】


6a
65a
4a
4a
62a
624a
4a
14a
11a

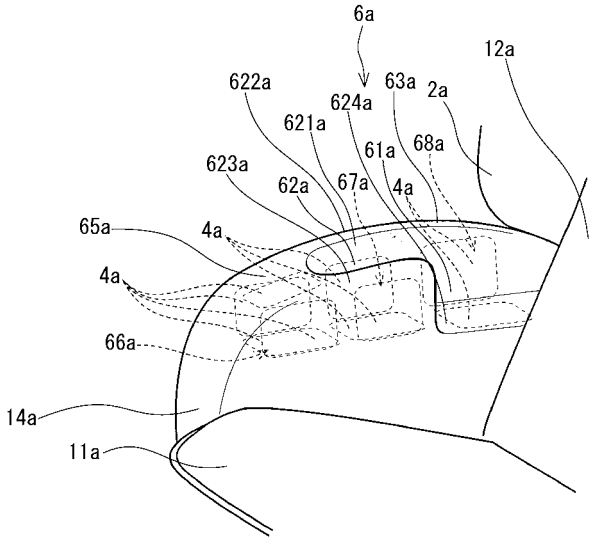
【図１１】



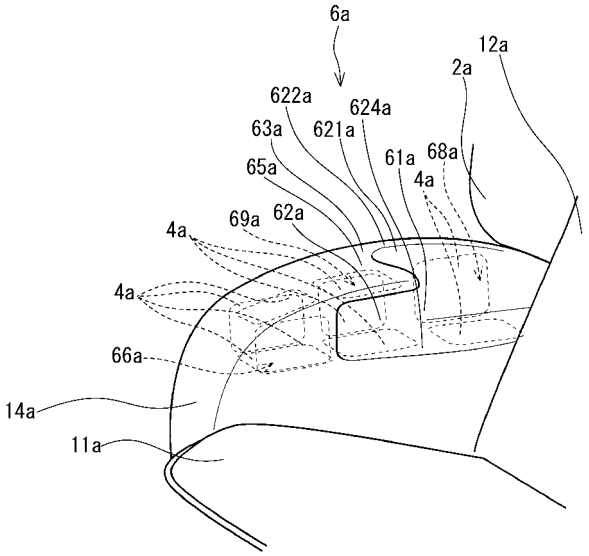
【図１２】



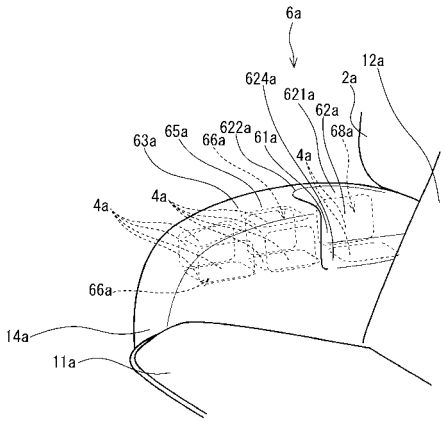
【図１３】



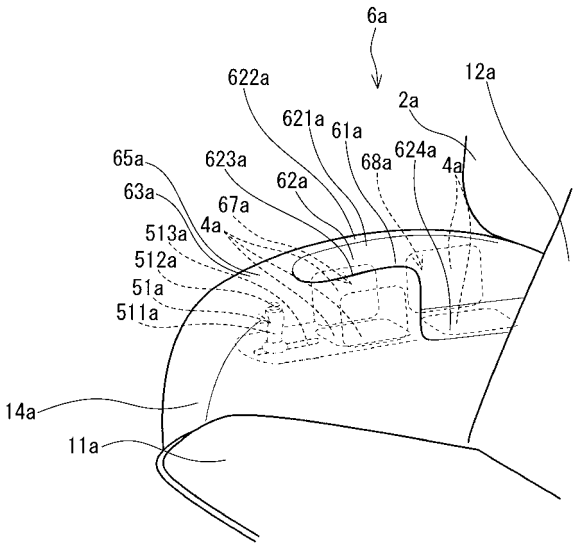
【図１４】



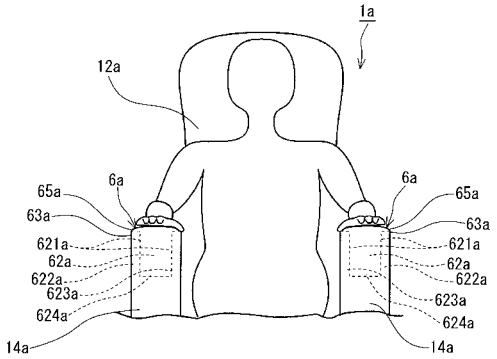
【図１５】



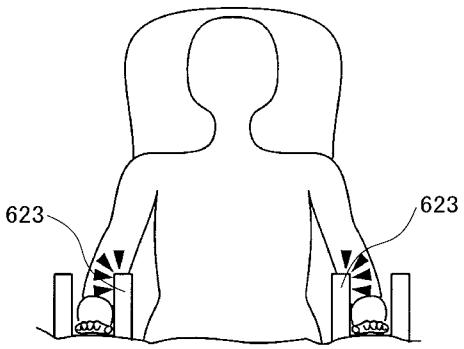
【図１６】



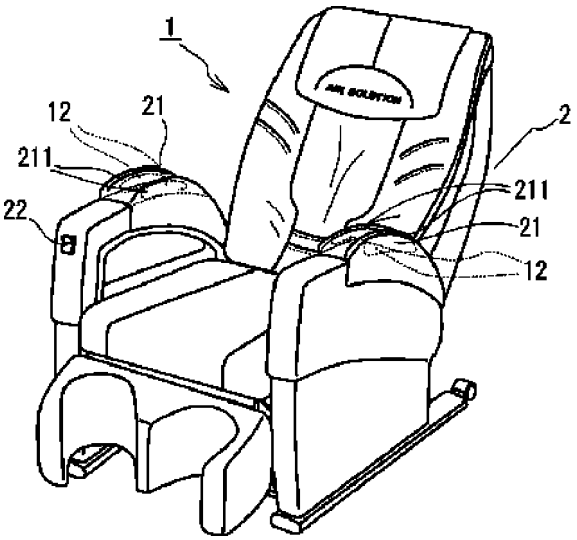
【図１７】



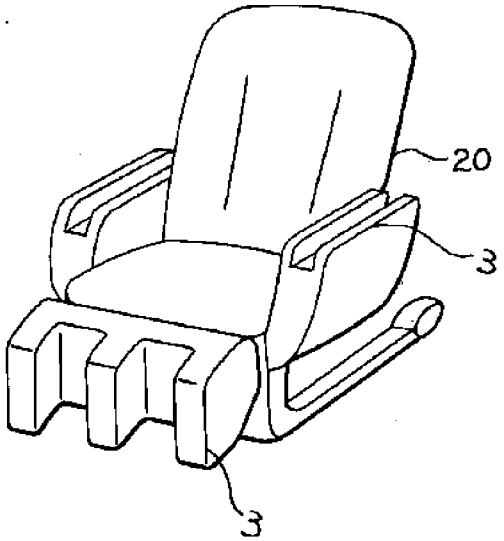
【図１８】



【図１９】



【図２０】



【手続補正書】
【提出日】平成18年8月28日(2006.8.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５１】
　或いは、口型に形成した空洞部６２ａの内部に、輪型の膨縮袋４ａを設けてもよい。該輪型の膨縮袋４ａは、図１２に示すように手部や前腕部の周部を隈無く挟圧する事ができ、また、手部や前腕部の幅方向において、施療者が好む角度で手部や前腕部を輪型の膨縮袋４ａ内に挿入してマッサージを受ける事が可能となる。この輪型の膨縮袋４ａは、例えばしなやかな熱溶融性シートで一方向に長く矩形状に形成すると共に、同方向における両端部を繋いで輪型とし、空洞部６２ａの内部に設けるものであってもよい。また、前記両端部は互いに脱着可能に連繋したり、さらに該両端部において施療者の手部や前腕部の太さに応じて調節可能としたりしてもよい。或いは、該両端部を互いに離脱させ、空洞部６２ａ内部において、自由な形態に設ける事ができる。例えば、該両端部を離脱させると矩形状の膨縮袋４ａとなるが、その中間部を通気可能に屈折させ、その屈折部を空洞部６２ａの前方側に配置させると共に、各両端部を空洞部６２ａの後方側に配置させる事ができる。このように輪型の膨縮袋４ａの両端部を離脱させると共に中間部を屈折させて空洞部６２ａ内に設ける場合は、手部や前腕部における幅方向のみの挟圧マッサージを実現する事ができ、施療者が好む手部や前腕部の幅方向における角度で挟圧する事ができるのである。

フロントページの続き

(72)発明者　川島　小路
群馬県太田市新田木崎町３６６　京和装備株式会社内

Ｆターム(参考) 4C074 AA02 AA03 AA04 AA05 BB05 CC01 CC11 CC17 DD01 EE00
EE05 FF09 GG03
4C100 AA02 AA15 AD15 AD17 AD21 BA02 BA07 BB03 BB05 BC11
BC12 BC13 CA03 CA04 CA05 CA06 CA07 CA08 CA09 DA01
DA04 DA05 DA06 DA08 DA10 EA09 EA12 EA13